

景観測色の基礎研究・1 計器による測色実験

Fundamental Study of Color Measurement for Landscape・1 The case of color measurement by Chroma Meter

松浦 邦男	宝塚造形芸術大学	Kunio Matsuura
加藤 力	京都工芸繊維大学	Tutomu Katou
村上幸三郎	村上デザイン事務所	Kouzaburo Murakami
村上三次郎	ミノルタ(株)	Sanzirou Murakami

1 はじめに

近年環境問題が世間で問題にされており、色彩に関しても注目を集めている。

測色調査には視感測色法と計器測色法が用いられており、その関係について検討した。

色を言葉で伝える場合、標準光源の下で観察した色を伝える約束になっている。

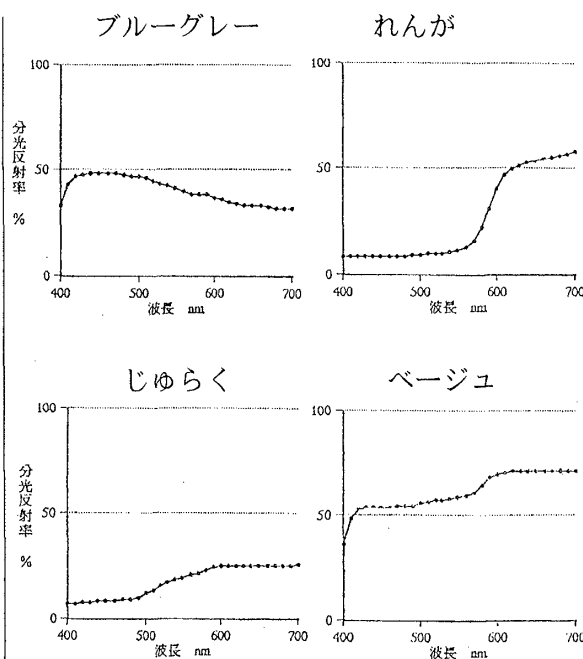
しかし現実の色彩景観は天候、日射方向、時間等の外界状況により影響を受け、同じ建築物においても様々な見え方をする。今回建築色彩の代表としてブルーグレイ系、レンガ色系、じゅらく色系、ベージュ色系の4色をフラット、凹凸ある面の各種条件に於ける測定を行った。

2 実験

カラーサンプル

- ・サイズ 900×600mm
- ・色彩
 - 10B7/2 ブルーグレイ系
 - 7.5R 5/8 レンガ色系
 - 2.5Y 5/4 じゅらく色系
 - 2.5YR 8/2 ベージュ色系
- ・テクスチャー

フラット ベニヤ板にラッカー吹き付け
凹凸 壁紙にラッカー吹き付け
各サンプルをミノルタ分光測色計 CM-2002
を用いていて分光反射率を計った。

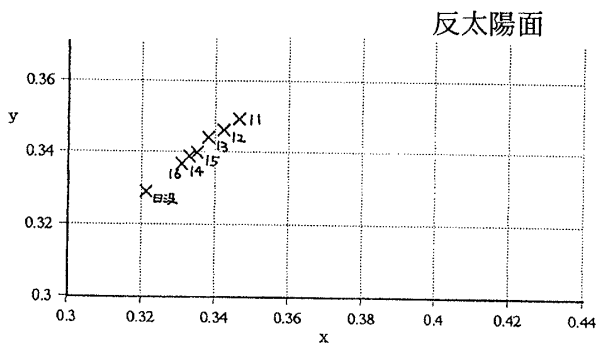
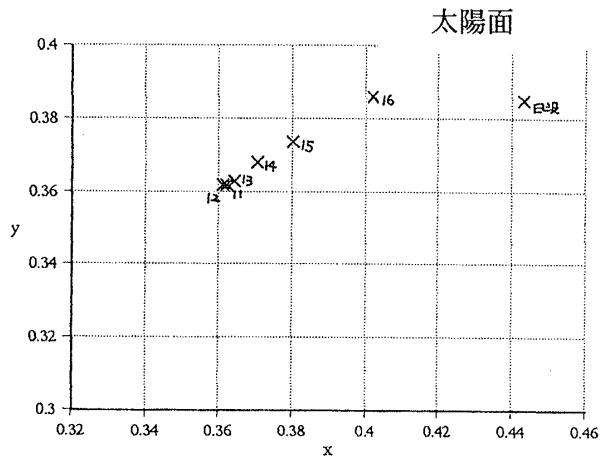
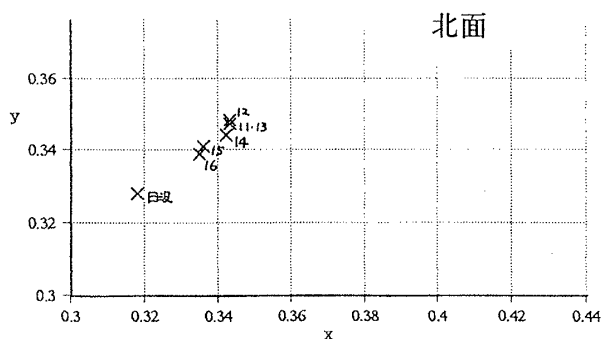
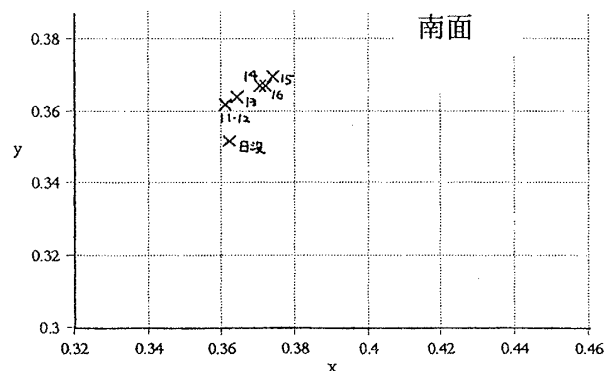
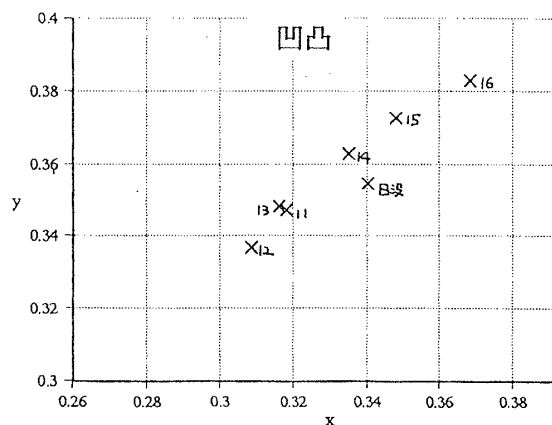
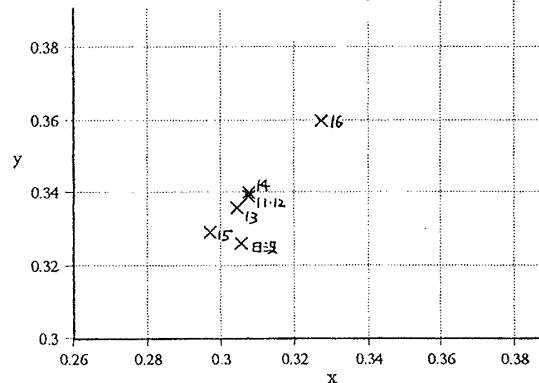


これらのサンプルを下記の4方向からミノルタCS-100を用いて5m離れ11時より日没まで1時間おきに計器測色を行った。

- ①南方向
- ②北方向
- ③太陽方向
- ④反太陽方向

測定日は快晴の1996年10月21日にフラット面を11月1日に凹凸面測色を実施した。

ベージュ系フラットの4方向での時間変化

ブルーグレー系 南面
フラット

数字は時間を表す

3 結果

建築物の壁面変化は南面や北面は色度変化は少ないが、太陽面は大きく変化する。又、テクスチャーの違いはフラット面に比べ凹凸面は大きく変化する。

4 考察

色彩景観は太陽の位置とテクスチャーにより大きく変化する事が分かった。今回は天候変化の少ない晴天の晩秋を選んだが曇りの日、雨の日等で当然変化がある。今後色彩景観を論じるときには、このような事実を考慮する必要がある。

謝辞：本研究は市民研究グループ「街の色研究会・京都」景観測色特別研究委員会（委員長・松浦邦男）による1996年研究の一部で、多数の委員が関与している。